

### 【別添3】 農地土壤除染技術適用の考え方

当面、5,000 Bq/kg以上の農地をそれ未満に下げることが目標とする(水田:6,300ha、畑:2,000haと推計)

注)●は廃棄土壤が出る手法、○は出ない手法。

土壤の放射性セシウム濃度	畑		水田	
5,000 Bq/kg	農作物への移行を可能な限り低減する観点、また、空間線量率を下げる観点から、必要に応じて○反転耕、○移行低減栽培技術を適用。			
5,000 Bq/kg ～ 10,000 Bq/kg	地下水位		土壤診断・地下水位	
	低い場合(数値は検討)	高い場合(数値は検討)	低地土	低地土以外
10,000 Bq/kg ～ 25,000 Bq/kg	●表土削り取り ○反転耕	●表土削り取り	●表土削り取り ●水による土壤攪拌・除去 ○反転耕(耕盤が壊れる)	●表土削り取り ●水による土壤攪拌・除去(低地土より効果低) ○反転耕(耕盤が壊れる)(地下水位が低い場合のみ適用)
25,000 Bq/kg	●表土削り取り 5cm以上の厚さで削り取り。 ただし、高線量下での作業技術の検討が必要。 (例えば土ぼこりの飛散防止のための固化剤の使用)		●表土削り取り 5cm以上の厚さで削り取り。 ただし、高線量下での作業技術の検討が必要。 (例えば土ぼこりの飛散防止のための固化剤の使用)	

### 廃棄土壤等の処理

廃棄土壤	実証試験において仮置きに放射線遮蔽性、可搬性を有するコンクリート製容器を利用したところ、有効であることが判明。 廃棄土壤から放射性セシウムを分離・除去する技術開発を引き続き実施。
植物残渣	廃棄する植物残渣の減容化のため、焼却による放射性セシウムの動態調査を引き続き実施。高濃度の汚染残渣等の仮置きにコンクリート製容器を利用したところ、有効であることが判明。

注1)実際の除染事業に当たっては、事前に雑草処理を検討する。特に草地などで牧草等のルートマットが生成されている場合には、牧草の剥ぎ取りをまず検討すべきである。

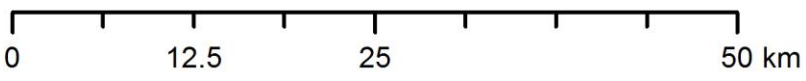
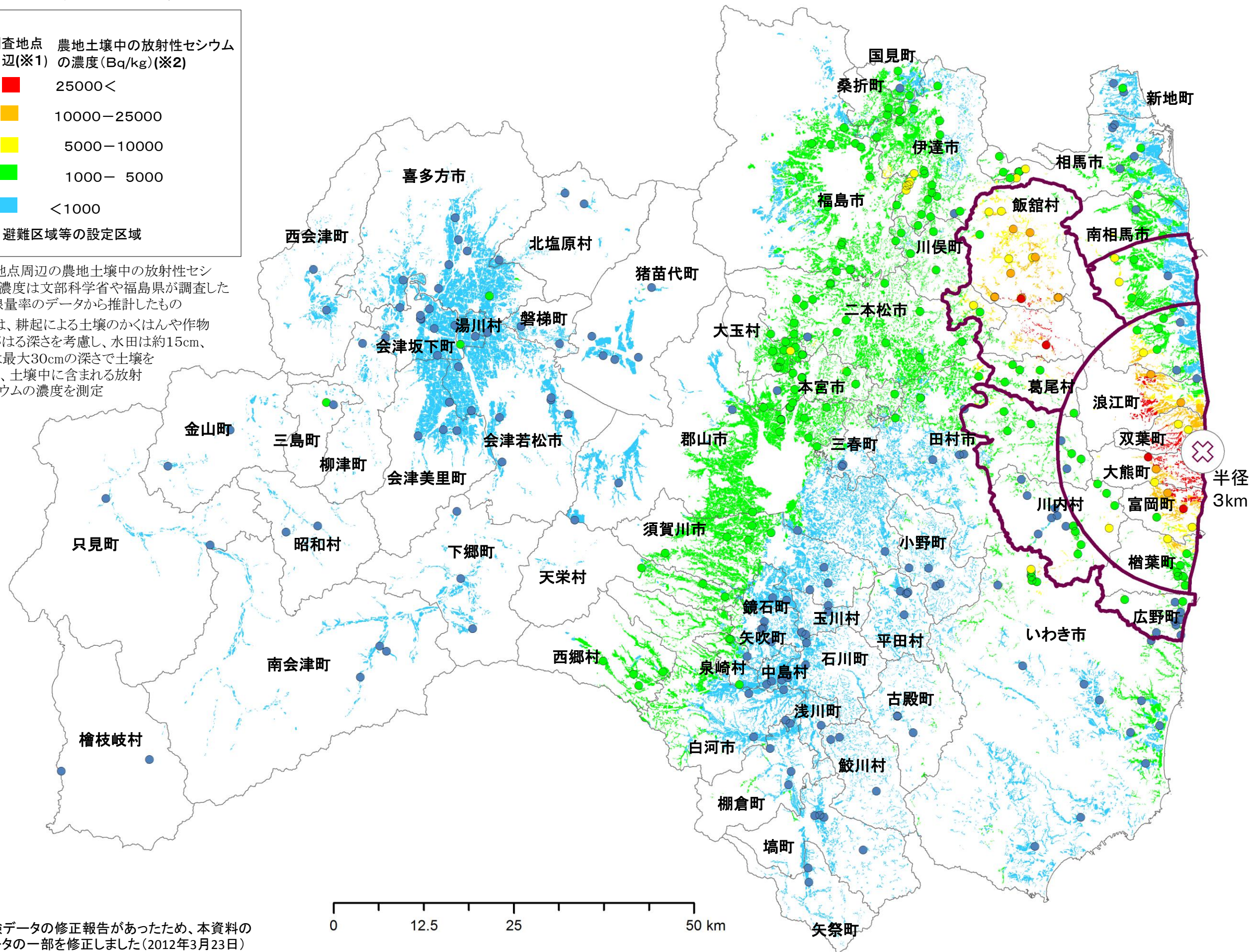
注2)「市町村による除染実施ガイドライン」(8月26日原子力災害対策本部)においては、廃棄土壤等の仮置きについては遮水した上でまとめて地下に置き、覆土する方法が記述されている。

# 福島県 農地土壌の放射性物質濃度分布図(参考)



※1: 調査地点周辺の農地土壌中の放射性セシウムの濃度は文部科学省や福島県が調査した空間線量率のデータから推計したもの

※2: 農地は、耕起による土壌のかくはんや作物の根がはる深さを考慮し、水田は約15cm、畑地は最大30cmの深さで土壌を採取し、土壌に含まれる放射性セシウムの濃度を測定



試験データの修正報告があったため、本資料のデータの一部を修正しました(2012年3月23日)